

お知らせ

- 次回活動日；1月14日（月、成人の日）、第一駐車場9時40分集合。主な活動はコナラ苗畑づくり、モミ幹食害対策（金網保護）、森林整備（倒木・危険木処理）、班活動（木工、栽培きのこ、植物調査など）。携行品；弁当、飲み物、雨具、あればチェーンソー、ヘルメット、ゴーグル。

活動の記録

12月1日（土）晴-12月2日（日）晴 参加会員 延21名



豊英島は秋色に輝き



森も秋色に色づき



空は紺碧の秋晴れ

秋晴れの好天候に恵まれ色づき始めた紅葉の美しい豊英島で、森の整備、コナラ林調査、照度測定、シイタケホダ木の移設とネット架け、鳥の巣箱架けなどのんびりと楽しい2日間の活動でした。長谷川さん・鶴沢さん・長村さんのお陰で両日とも暖かい昼食、ご馳走様でした。恒例の忘年会は「里山ご膳」を肴に、銘酒を酌み交わしながら、1年間だけでなく5年間の活動を振り返り、今後の抱負を語り合い、遅くまで盛り上がりました。

○コナラ伐木と造材：10月研修時に伐木したコナラの整理、シイタケ植菌用に不足のコナラを数本追加伐木、90㍓長さに玉切り、ホダ木約30本を準備した。植菌は2月か3月の予定。

○倒木・危険木等の処理：森に放置されてきた倒木・枯れ・欠損木等を伐採し整理した。巨木林周辺からマダケ林周辺まで、枯死・倒れ掛かった木は随所にある。大径木やかかり木もある。平易な木は初心者が、大径木や危険木はベテランが受け持ち、訓練をかねて数十本処理した。久しぶりのチェーンソーの振動音に森の作業を実感する。



伐木方向ヨシ！



倒木のかかり木処理に苦戦



実生の成長調査



掘り返して土壌調査

○コナラ林調査：実生更新のため夏に選抜した80本は、すべて生存しており、平均樹高は26.1cmで、最大75cm 最小9cmであった。芽生え発生から4年目のコナラとしては著しく成長が遅いが、根を掘り出してみるとそれなりに根張りはあり、土壌条件もそれほど悪いとは見受けられない。やはり日当たりが成長に影響しているように見うけられた。

○相対照度調査（2007.12.02 調査時間 10:40～11:30 晴れ、雲の動きあり）

測定地点 OPEN：吊橋の上 1班：コナラ更新林，広場横楯場，ヤマユリネット

2班：移設ホダ場（S0403），巨木林-1，巨木林の2号ネット（杭2-6）

測定結果

（表） 相対照度の変化（％）

表に2007年6月10日の結果と、今回調査した結果を示した。

相対照度は、各箇所でも6/10よりも12/02の方が高い値を示した。これは、今回の測定地点がおもに落葉広葉樹を上木とする森林であり、落葉が始まって林内が明るくなったためと考えられる。

測定地点	070610	071202
コナラ更新林	18	47
広場横ホダ場	3	25
移設ホダ場 S0403	4	9
巨木-1	5	19
巨木（杭2-6）	-	9
ヤマユリネット	11	32

○ホダ木移設とネット架け；日当たりの良い広場近くのホダ場から、5月に移設した場所にホダ木25本を移設し継ぎ足しました。その上から防獣ネットを取り付けました。（久我記）



サルに備え厳戒態勢のネット



シジュウカラ大歓迎



広場の落葉堆積にカブトムシ幼虫

○木工班・巣箱の設置作業；2日の午後、要望が多かった巣箱の製作と設置作業を行いました。ただし今回は加工済みの材料を現地で組み立てるようにしました。巣箱の特徴は、スギの丸太を使用していること。シジュウカラを対象にしたこと。ヒナが巣立った後に巣箱の掃除ができるようにしてあることです。（設計に関しては日本鳥類保護連盟と日本野鳥の会のHPを参考にしました）設置に関しては野鳥班の高橋班長のアドバイスを参考に広場から観察しやすい場所を選びました。巣箱は二つですが、うまくいけば来春シジュウカラが営巣しますのでお楽しみに。（長村記）

豊英島ニュース-ニホンジカ出没

2007年12月2日13:11 禁断の岬方面で植物調査中にシカを目撃した。岬南側の斜面から入り江の方向に2頭が逃走した。ヤブの中であったため2頭の詳細は不明。同14:00 1頭（メス）が、コナラ更新林の北西側にあるブッシュの中から飛び出し、入り江方向に逃走した。

巨木林内モミ混交区域の比較的若い複数のモミの木に、角研ぎあとが多数認められた。また、コナラ更新林の近くに比較的新しいフンがあった。（福島記）

若いモミの木にシカの角研ぎ跡多数→

